

愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会 第12回 会議録

1 開催日時

平成23年3月24日（木）午後1時から午後2時15分まで

2 場所

愛知県立芸術大学 管理棟 3階 大会議室

3 出席者

別添出席者名簿のとおり

【概要】

磯見座長：本日は皆様、お忙しい中ありがとうございます。これまでビジョン検討会のために足を運んでいただき心から感謝申し上げます。皆様ご承知のとおり東北・関東の地震、津波、そして原子力発電所の事故と大変な事態が巻き起こっている。テレビで津波の状況を見ると、水に浮かぶ家がひどくあっけなく感じられた。我々人間のやる事が大きな自然の中で非常に無力だと実感している。ともあれ、皆様には、この大学の整備のために全力を尽くし、いいものを作るべくご努力をいただいた。本日は最後となるが、悔いのない締めくくりをしたい。よろしくお願いします。

座って議事を進行させていただく。本日は、「(1) 愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書(案)について」をご議論いただき、報告書を決定していきたい。それでは報告書について事務局から説明をお願いしたい。

竹内事務局長：お手元の資料1「愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書(案)」をご覧いただきたい。前回3月1日(火)のビジョン検討会及び部会で「素案」をお示しし、ご議論いただいた。委員の皆様方には、その後、この素案について3月10日(木)を目処に修正のご意見を一部いただき、修正したものを3月18日(金)頃に各委員の元にお配りさせていただいた。その後、再度見直し、若干、字句やレイアウト修正を加えているが、3月18日(金)頃にお送りしたものが基本となっており、本日、「ビジョン報告書(案)」としてお配りさせていただいた。なお、香山委員については、磯見学長・長谷部会長が香山委員にお会いし、素案の内容を説明の上ご了解いただいたのでご報告させていただく。

それでは、本日の「ビジョン報告書(案)」の内容について説明させていただく。すでに委員の皆様方には内容はよくご覧いただいておりますが、本日、最終のビジョン検討会でこの案をご議論いただく事になるため、非常に恐縮であるが、再度、全文について読ませていただく。

(以下、報告書本編、ほぼ朗読)

竹内事務局長：〔資料〕編について、主な点だけ簡単にコメントさせていただく。

まず、「1 既存施設の現状（1）総括表」。

「閲覧室棟」の耐震性能について、最小 I_s 値が「0.15」と非常に小さな数値が出ており、再度調査をする必要があるため「※ 注2 再調査予定」と追記している

次に、「（2）建築年度別建物配置図」。

昭和40年から45年にできたもの、それ以降にできたものを色付けした資料である。

つづいて、「（3）主な建物の現状」。

これについては、最初に書いてあるように、平成20年度に実施した「芸術大学における文化的建築物保存・活用手法、給排水・エネルギー手法検討」において、建物概況を整理してあるため、この資料を引用している。次のページから個別の建物の状況を載せている。

iv ページ左側「1. 管理棟」の一番下に資料出所を明記した。v ページ右側「4. 閲覧室棟」で「最小 I_s 値 0.15」とあるが、先程申し上げたように、再度調査する必要があるため、「※は再調査予定」と追記した。

x ページ、「2 キーワードに対する主な委員のコメント」について、特に修正点はない。

x iii ページ、「3 平成22年度調査による植生区分図」について、若干文章等は整理しているが、調査結果は変わっていないため、説明は省略する。

最後の x iv ページ、「4 ビジョン検討会委員名簿／審議経過一覧」について、「注」を追記している。

「注1」として、「※」はビジョン検討会部会委員を示していることを追記した。

「注2」として、「奥村委員については、第8回ビジョン検討会においてビジョン検討会を「離れる」旨の宣言がなされた。」と追記した。尚、3月22日（火）に奥村委員から F A X が届いた。その内容として、「2011年3月22日 元委員 奥村昭雄 私は昨年12月17日の第8回検討会において離れるという宣言をいたしました。その理由についてはその宣言の中で述べました。しかしその後の検討会及び部会において、奥村昭雄は欠席という扱いになっております。すなわち出席しない事によって賛同しているとの解釈を検討会が考えておられる可能性が考えられます。私は12月17日に検討会から離脱した事を再度お伝えし、それ以後の検討会との関わりがない事を再度申し上げます。」とある。これまで、ご欠席ではあったが資料は引き続き送っており、その出席者名簿に「欠席」と表記していたため、先のコメントがあったものと思われる。よって、本日の資料の出席者欄には「—（横線）」を引くこととした。

次に、芸大学生自治会委員長・横山委員については、実際にキャンパス整備について活動されている伊藤委員がずっと代理で出席いただいた。名簿上は「横山委員」として進めてきたので、名簿の修正はせず、「注3」として、「横山委員については、伊藤祐基学生自治会代表代理（美術研究科博士前期課程2年）が出席した。」と表記した。

磯見座長：ありがとうございました。ただ今の説明にあったように、この報告書には、これまで検討会で検討してきた内容、それから各委員からいただいたご意見が盛り込まれていると思

うが、全体を通して改めてご意見があればいただきたい。

堀越委員：4ページ「1 現キャンパスの評価と継承」の、左ブロック一段目最後の文「現キャンパスにおける評価し継承すべき内容を明らかにし、共有可能にすること“が”、ビジョン検討会において必要と判断した。」について、「が」だと「必要と判断された」と結ぶべきで、「判断した」と結ぶのであれば「を」とすべきではないか。それから、左ブロック最後の文「全体を大きく3つのグループに分けることが出来た。」について、何となく文章が落ち着かない。実際には「建物群を大きく3つに分類される事が分かった」という事だと思うが、「このキャンパスを見て“何を”大きく3つのグループに分けることが出来た。」のか書くべきで、文章が落ち着かないので、考え直した方が良い。

磯見座長：今の2点について、事務局の方で再考して訂正したい。

森 委員：まず、6ページから10ページ、12ページの図について、新音楽学部棟の入っている図と入っていない図が混在している。これは意図があつてそうしたのか、確認したい。

2点目として、新音楽学部棟がなぜここに建設されるのかという事の経緯についてもう少し触れてはどうか。12ページのところに突然、新音楽学部棟が現れている印象を受ける。2ページの「これまでの経緯と審議内容〈審議内容〉2 新音楽学部棟の整備」のところで「基本設計に沿って整備していくことに合意した」とあるが、ある考えの下で場所を選定した経緯が本文の中に記述されても良いのではないか。

3点目として、「〔資料〕IVページからIXページ」について、「修繕暦」のところに「別紙参照」とあるが、この報告書に別紙がつかないのであれば修正・削除等した方が良い。また、vページ「3. 講義棟」の「修繕暦」のところには「※」が入っているので合わせて修正するべきである。

水津委員：新音楽学部棟はまだ建っていないので、6ページから10ページには無い方がいいという指摘があり、削除したはずなので、7ページと9ページの新音楽学部棟の表記は削除するべきである。

磯見座長：削除することとする。2点目については、いかがか。

竹内事務局長：新音楽学部棟の建設位置について、他の委員からもそういった質問があつた。今日の議論の結果、付け加えるのはやぶさかではない。ただ、ビジョン検討会においては、基本設計でこの建設位置を選定した理由として、工事中の騒音の問題、現奏楽堂との近さといったことを説明申し上げたに過ぎず、あえて建設場所をどこにするかという議論はしていないと認識しており、「基本設計に沿って進めることにした」という表現の「基本設計」という言葉に建設場所の件も含まれていると事務局として解釈している。

森 委員：外部の方が報告書をご覧になって「突然、何故この場所に建設されるのか」と思われる

のではないかという危惧がある。

磯見座長：それでは、対応を検討したい。3点目のご指摘にあった余分な記述については削除させていただく。

西澤委員：5ページの文章と図について、図には〔秩序／緊張感〕〔安らぎと余裕〕と書いてある一方、本文では〔秩序と緊張感〕と〔秩序／緊張感〕の2つの記述が混在している。〔安らぎと余裕〕という表現に合わせ、〔秩序と緊張感〕という表現に統一したい。また、文章内の〔やすらぎと余裕〕の表現は、先に作成した図に合わせ〔安らぎと余裕〕という漢字の表現に修正したい。

磯見座長：了解した。修正することとする。

江口委員：素晴らしいビジョン報告書をまとめていただき、ありがとうございます。細かい修正は特段無いが、冒頭の学長のお言葉にあったように、東北地方太平洋沖地震のニュースを聞いた時、芸大は大丈夫であろうかと危惧した。こういう時期にまとめる報告書なので、これを踏まえ、例えば、同規模の地震が起きた場合、建物に起因する被害者を絶対にここからは出さないといったような記述を加えていただきたい。東日本ブロックの同窓生の中にも、被災され、ご不便な思いをされている方もいらっしゃる。そういった事も考慮し、検討いただきたい。

磯見座長：検討させていただくこととする。

横山委員（代理：伊藤氏）：8ページ「(4) キャンパスのコアを生成する建物群」の「キャンパスのコア」について、私は「キャンパスの中央広場」とか「コア」と言うと「学生食堂前の空間」をイメージする。「キャンパスのコア」として、空間が北に伸びて行くことはもちろんあると思うが、「キャンパスのコアを囲む建物群」に法隆寺壁画模写展示館が入るのであるか。私自身、1回しか行った事がない建物であり、学生にはあまり馴染みの無い空間ではないだろうか。開学当初に建てられた訳でもないし、木が生えて少し奥まった、隔離したイメージがある場所である。図面で見ると、確かにコアを囲んでいる建物として違和感はないが、少し私の感覚とはズレがある。ただ、これから新音楽学部棟が建ったり、その周りに新たな施設が建設されたりして、これから大学が交流を目指す、発展していくことも踏まえ、こういった形にしているのかなという気もしている。このことについて、専門家の方にご意見を伺いたい。

水津委員：ご指摘の通り、最初は法隆寺壁画模写展示館を「キャンパスのコアを囲む建物群」に含めていなかった。ただ、実際には、空間の拡がりがあそこまで及んでいるのではないかということで、初期の建物ではないが、この空間の拡がりや中央の広場を規定している建物として入れるべきであるという意見がここで出て、加えた経緯がある。

西澤委員：学生は日々ここで生活しているので、自分で行く・行かないという事に絡んで「縁遠いところ」と「身近なところ」があるというのは実感として非常に分かりやすい。「縁遠いので分かりにくい」ということがある一方、今のご指摘の重要なところとして「身近なところをどう評価するか」ということがあると思う。8ページの図を見ると、学生食堂の前で楕円が半欠けになってしまっている。我々も文章の中で、建物が雁行して配置されて、その学生食堂の前の庭ができていることを指摘しており、その庭全部が、滞在時間の長い学生さんにとって、大学の中心であると認識するのは非常に分かりやすい話なので、些細な事かも知れないが、楕円で庭を全部覆った表現にしたい。日々生活していて、実感を持って言っていたというのは非常に良い事なので、それは反映した方が良い。

堀越委員：私も、法隆寺壁画模写展示館は、「キャンパスのコアを囲む建物群」に含めなくても良いと思っている。管理棟、講義棟、それから正門から上ってくる道の3つで1つのまとまり感のある空間を作っていると私は考えている。私自身も学生会館の前のところが一番好きな場所だが、その場所と講義棟のある中央の広場をコアと捉えれば良いので、法隆寺壁画模写展示館は「キャンパスのコアを囲む建物群」に入れなくても良かった。今、反対することでもないとは思っているが、先ほどのご意見は非常に良く理解できる。

水津委員：確かに、「間の空間を生成する」時に法隆寺壁画模写展示館は機能しているという話はあったが「キャンパスのコアを生成している」とまでは言っていなかったかも知れない。可能であれば、法隆寺壁画模写展示館は、9ページの「(5)「間の空間」を生成する建物群」に加えることとして、8ページ「キャンパスのコアを生成する建物群」には入れない形が私も良いと思う。

磯見座長：そのように訂正させていただく。

それでは、ただいまご指摘があった部分を訂正して、これを「愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書」として決定してよろしいか。

(異議なし)

磯見座長：そのように決定させていただく。このビジョン報告書については、愛知県公立大学法人を経由して愛知県へ提出する。提出にあたり、先程のいろいろなご意見に対する対応、誤字の修正等は事務局で責任を持って行うこととする。

続いて、事務局が参考1『愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書』について(要旨)」を作成したので、これについて事務局から説明をお願いしたい。

竹内事務局長：参考1『愛知県立芸術大学施設整備ビジョン報告書』について(要旨)」をまとめた。ただいまの議論を踏まえて直さなければいけない部分是对应するが、これは、報告書がこれだけの厚さになっているため、いろいろなところに説明していくにあたって主な点

をまとめたものである。

ビジョン検討会にて検討した内容として「1 現キャンパスの評価と継承」、「2 キャンパスの整備方針」、「3 キャンパス活用の方向性」、「4 今後の施設整備の進め方」としてまとめた。これとは別にリーフレット等は作成していこうと思うが、とりあえずこのような形で1枚にまとめたので、参考に配らせていただいた。

磯見座長：この報告書の内容については、この要旨の他に、リーフレットを作成し学生や教員をはじめ、学外関係者や県民に対して広く公表していきたい。

福本委員：この要旨の右の図「3 キャンパス活用の方向性」について、紙面上、図が1つしかないのにも関わらず、拡張可能エリアが随分強調されている気がする。このエリアについてはまだ流動的だと確認したと思うので、表現を見直した方が良い。

谷口委員：この図は見慣れないものであり誤解を招くのではないか。要旨やリーフレットには基本的に本編にある図を入れるべきである。例えば、12ページ「3 キャンパス活用の方向性」の図からアルファベットを取った程度の表現の方が誤解を招かない。直していただきたい。

西澤委員：12ページの図のキャプションについて、今気が付いたが、以前は「拡張可能なエリア」という言葉で書いていたのではないかと思う。いつの間にか「拡張エリア」になっており、すべて拡張するものだと見える。これはまだ先の検討があるので「拡張可能エリア」という表現にしたはずである。

磯見座長：以上のご意見について、訂正することとする。

森 委員：要旨の文章について、冒頭で、「すばらしいキャンパスの継承・発展」という言葉が書かれているが、「吉村順三先生の設計で、その建物群を活かす」という事がもう少し盛り込まれてもいいのではないか。それによって、抵抗が少なくなる方もいらっしゃると思う。この要旨が表に出るのであれば、原設計者の意図を汲み取ってこれからキャンパス構想を進める事をきちんと伝えていただきたい。

磯見座長：要旨については、見直しをするので、本日は回収させていただきたい。

それでは、委員の皆さんにおいては、昨年7月から長期間に渡って施設整備ビジョン検討会にご尽力いただきました事、本当に心から御礼を申し上げたい。今後はこのビジョン報告書に基づき、キャンパスマスタープランを作成していきたい。これにて、ビジョン検討会を終わりとす。長期間ありがとうございました。

以 上